

# 千早赤阪村埋蔵文化財調査報告

千早赤阪村埋蔵文化財調査報告書 第4輯

2007. 3

千早赤阪村教育委員会

# 千早赤阪村埋蔵文化財調査報告

千早赤阪村埋蔵文化財調査報告書 第4輯

2007. 3

千早赤阪村教育委員会

## はじめに

千早赤阪村には多くの遺跡があります。これまで蓄積された発掘調査の成果、また文化財の普及啓発について報告します。

埋蔵文化財の事業は華々しいものではありませんが、普及啓発なども交えて着実に本村の中に根を下ろしつつあります。これは大きな成果としてあげることができるでしょう。

調査の実施にあたっては、関係者をはじめ多くの方々のご理解・ご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

今後とも、本村の文化財行政にご協力いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

平成19年3月

千早赤阪村教育委員会

教育長 山本澄雄

## 例　　言

1. 本書は、千早赤阪村に所在する文化財調査報告書である。
2. 本事業は、千早赤阪村教育委員会社会教育課 主事 西山昌孝、和泉大樹を担当者として実施し、平成18年4月1日に着手し平成19年3月31日に完了した。
3. 本書の執筆・編集は西山、和泉が行った。文責は文末に記する。
4. 挿図の方向は国土座標に基づく座標北を示し、標高はT.Pで標示した。
5. 調査過程における指導については、多くの方々から助言を受けた。記して感謝の意を表したい。  
(順不同・敬称略)

石上 怡、耕本 哲、岩瀬 透、阪田育功、上林史郎、服部文章（大阪府教育委員会）

6. 調査に参加した者は、下記の通りである。  
谷口夫抄子、池島利香、岩崎和彦、佐々木浩史、片山博史、志岐麻子

# 目 次

はじめに 千早赤阪村教育委員会教育長 山本澄雄

例言

日次

I	二河原辺城跡の中近世墓群	1
II	誕生地遺跡の調査	7
III	千早赤阪村における文化財普及啓発への取り組みについて	
1.	はじめに	9
2.	村立郷土資料館	9
3.	歴史講座	10
4.	発掘調査への参加	12
5.	おわりに	14

# 挿 図 目 次

第1図	二河原辺城跡と周辺墓地位置図 (1/6,000)	1
第2図	二河原辺城跡の中近世墓群 (1)	3
第3図	二河原辺城跡の中近世墓群 (2)	4
第4図	二河原辺城跡の中近世墓群 (3)	5
第5図	二河原辺城跡の中近世墓群 (4)	6
第6図	誕生地遺跡位置図 (1/5,000)	7
第7図	誕生地遺跡の調査	8

## I 二河原辺城跡の中近世墓群

### 1. はじめに

二河原辺城跡は、千早赤阪村大字二河原辺にある城郭遺跡である。開発に伴い平成2年度に21,000m<sup>2</sup>の発掘調査を行った。この結果、本遺跡からは城郭遺構だけではなく、中近世墓地と考えられる土壙群が3ヶ所確認された。3つの土壙群は3つの尾根にそれぞれ1カ所ずつあり、遺構の時期は鎌倉時代、室町時代～近世、近世の3時期に分かれている。そのうち、2つの土壙群について紹介する。

### 2. 鎌倉時代の土壙群

二河原辺城跡のなかにある3本の尾根のうち、北側の尾根（C尾根）に位置する。尾根鞍部に3基の土壙が検出された。この土壙群、およびこの周辺からは、石造物は出土していない。

SK1は、東側の斜面に位置する楕円形の土壙墓である。土師器皿6枚が上向きに出土している。SK2は、同じく東側の斜面に位置する。斜面に位置したため崩壊したと思われ、遺構の半分は残存していない。SK1よりも遺構の遺存状態は悪いが、青磁碗と土師器皿2枚が出土している。青磁碗は遺構の端に伏せた状態で検出された。口縁の一部を欠いている。青磁は龍泉窯系の碗で、横田・森田編年のI-4a類である。

他にも、土壙が数基検出されている。SK4は、尾根の鞍部に位置する。遺構の遺存状態は上面が削平され浅くなり、遺構の底しか残っていない。しかし、その浅い遺構の中から人骨が出土している。これらのことから、この土壙群は墓であり土葬墓とすることができます。

### 3. 室町時代～近世の土壙群

二河原辺城跡のなかに3本の尾根のうち、中央側の尾根（B尾根）に位置する。尾根鞍部に63基の土壙が検出された。ほとんど遺構は墓地に関係する遺構である。この土壙群、およびこの周辺から



第1図 二河原辺城跡と周辺墓地位置図 (1/6,000)

は、C尾根と同様に石造物は出土していない。

この墓地はC尾根の土葬墓にくらべ藏骨器を使用した火葬墓であることが特徴的である。SK11は藏骨器を使用した墓である。胴部過半に穿孔を行っており、内部に骨灰と土師器小皿が納められていた。藏骨器は常滑で、断面N字状の折返しの口縁が丸くなり、玉縁状に変形した壺である。胴部外面に押印文は施されていない。壺の時期は13世紀後半と思われるが、内部に納められていた小皿は16世紀と考えられる。SK34は土師質壺を藏骨器として使用した墓である。これもSK11と同じように内部に骨灰が納められていた。

ほかに藏骨器を伴わないが墓と考えられる土壙も多数検出した。骨は出土してはいないが、SK9のように土師器や鉢などの副葬品、また錢貨などが出土している墓がある。また、直径40cmほどのピット状の土壙も多数検出している。これらも骨灰など骨は確認できなかったが遺構内から土師器皿や錢貨が出土しているものもあり、これらも墓と考えられる遺構である。

この土壙群には、藏骨器を伴う墓と伴わない墓、ピット状の墓が混在していた。墓の規模や副葬品に違いはあるが、いずれの墓も火葬墓であったと考えられる。

#### 4.まとめ

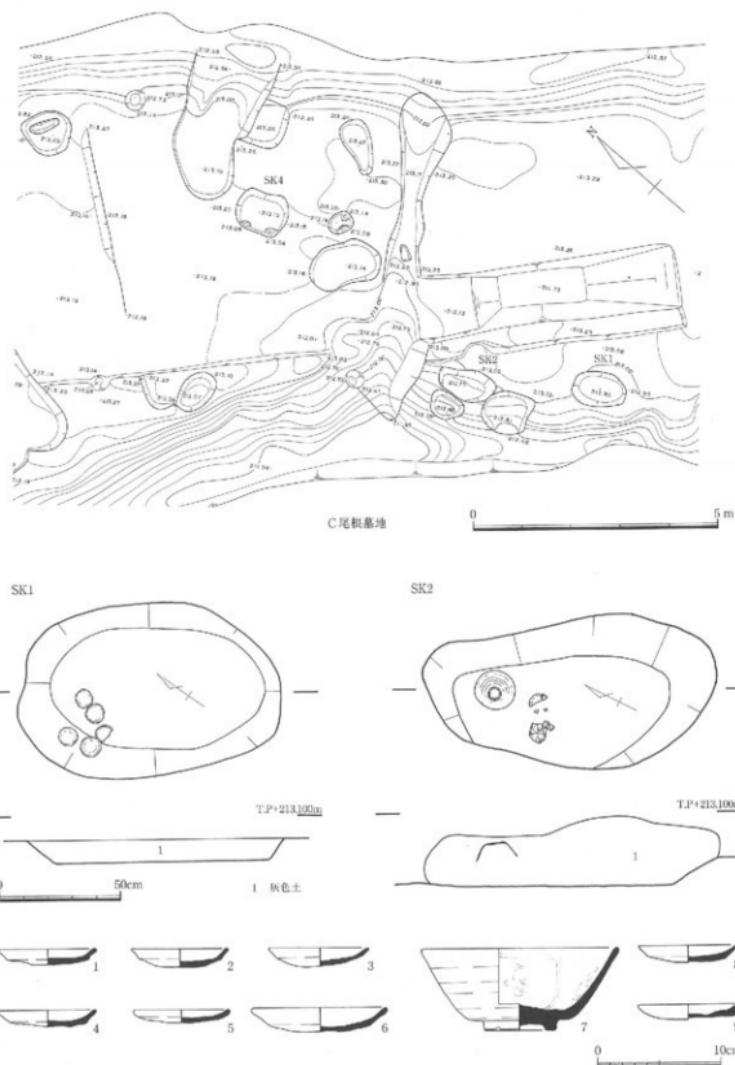
二河原辺城跡の範囲内で確認した2か所の中近世墓地を紹介した。このほかにA尾根の西端に近世墓群が確認された。人骨が出土した土葬墓のほかに遺構は少ない。周辺からは近世の墓碑などが確認されている。地元の方によると、工事に際して墓碑などを現在の二河原辺墓地へ移転したそうである。

本遺跡の3つの墓地は、最初に営まれたC尾根の墓地が13世紀末から14世紀初め、B尾根の墓地が15世紀から17世紀、A尾根の墓地が近世の終わりごろに使用されたと考えられる。埋葬の方法は、土葬から火葬、そして再び土葬へと変化している。

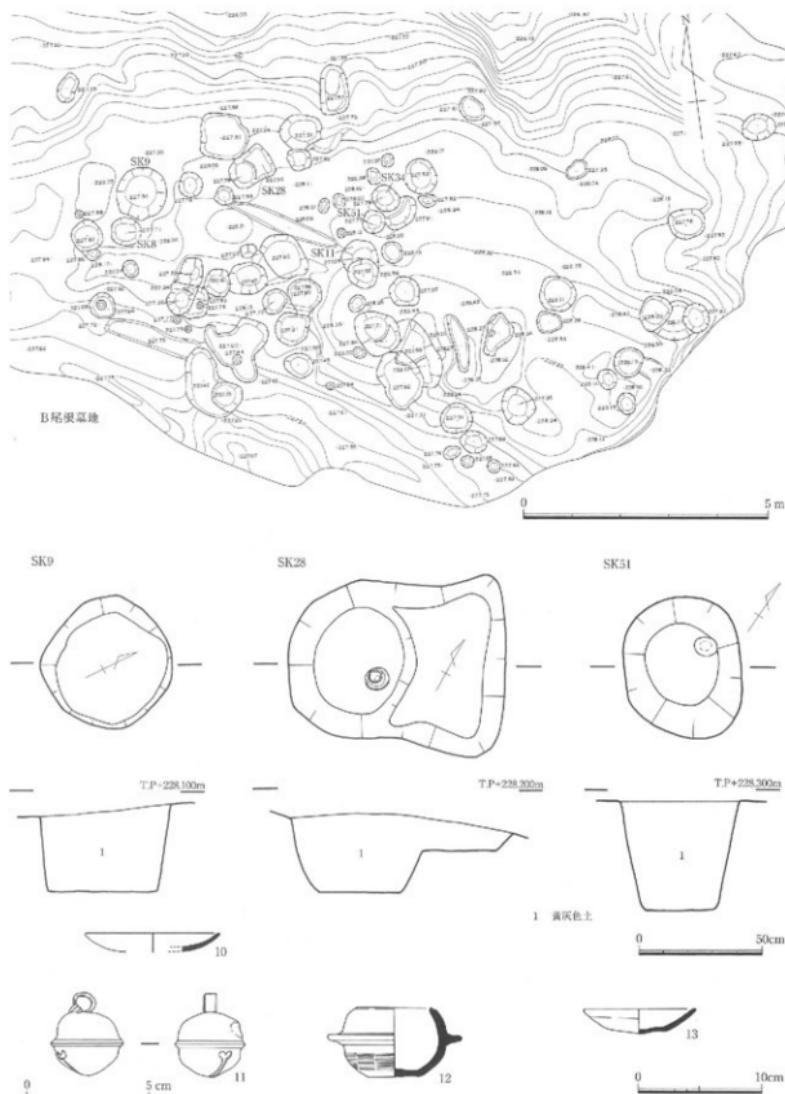
現在、二河原辺城跡の主郭は、墓地として使用されている。そこに造立されている石造物では、残欠ではあるが鎌倉時代末か南北朝時代の大型五輪塔がもっとも古い。その次に永正4年（1507）一石五輪塔が続き、中世末から近世へかけてたくさんの石造物が造立されて行く。

発掘調査の結果と現在使用されている墓地が3ヶ所あることから、二河原辺と南水分が接するこの狭い範囲の中に、時間差はあるとしても6ヶ所もの墓地が存在していたことが判った。遺跡化した墓地と現在も使用されている遺跡化しなかった墓地の差は、どのような原因によるものかは判っていない。この解明については、今後の課題としたい。

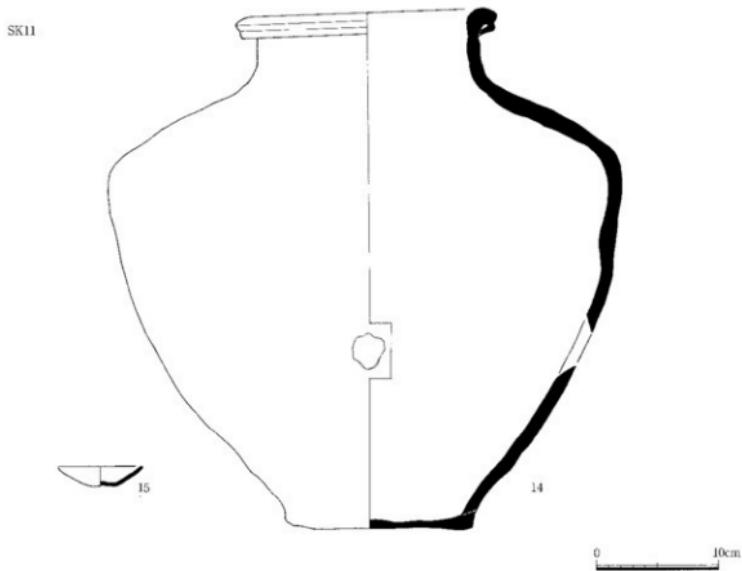
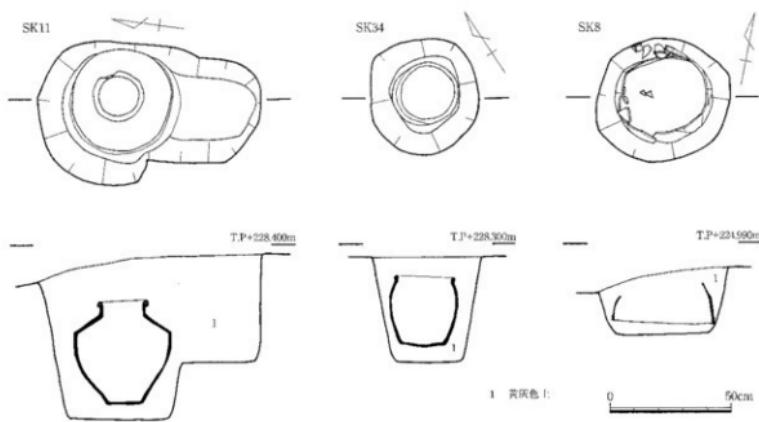
（西山昌孝）



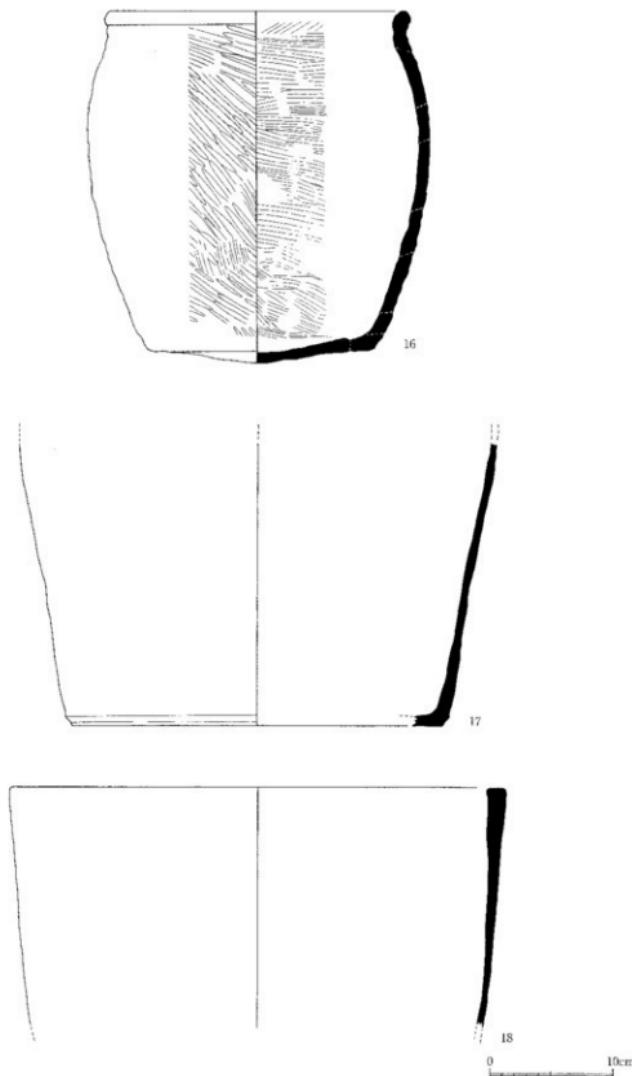
第2図 二河原辺城跡の中近世墓群（1）



第3図 二河原辺城跡の中近世墓群 (2)



第4図 二河原辺城跡の中近世墓群（3）



第5図 二河原辺城跡の中近世墓群 (4)

## II 誕生地遺跡の調査

### 1. はじめに

誕生地遺跡は、千早赤阪村大字水分と二河原辺とにまたがる城館遺跡である。歴史の丘公園整備に伴い平成3年から4年にかけて発掘調査を行い、2条の堀で囲まれた14世紀の城館を検出した。

しかし、この間にも遺跡東側で小開発があり、用壁工事の際に立会を行った。その結果、土器埋納遺構が確認され、東側にも遺跡が存在することが確認された。そのため、一時工事を中断し部分的な調査を行った。そのうち、土器埋納遺構について紹介する。



第6図 調査位置図 (1/5,000)

### 2. 土器埋納遺構

この遺構は、北側トレンチの壁で検出した柱穴状の遺構である。掘方は円形で径36cm、深さ40cmを測った。埋土は上層が灰色粘土混じり黄灰色土、下層は茶褐色土で、遺物は土師器・瓦器が出上している。とくに、多くの土師器小皿が出土した。いわゆる土器埋納ピットである。

遺構からは、土師器小皿の完形品が12点出土した。皿は2枚、ないしは3枚を重ねるように納められていた。埋納に上向き、または下向きに納めるという規則性はなく、破片も含めて雑然と一括で納められた。そのうち、1点のみが口縁部に煤痕を残す。他の瓦器椀や奈良時代の土師器杯は混入である。

1~23は土師器皿である。そのうち1~12は完形品で口径8.2cm~8.8cm、器高1.2cm~1.7cmを測る。口径の大小で分けることができる。大きいものは器高が低く浅い皿で、小さいものはその逆で高く深い皿である。24~26は瓦器椀である。口径は13.1cm~13.2cmで内面に数条の暗文を施す。外面には暗文はない。

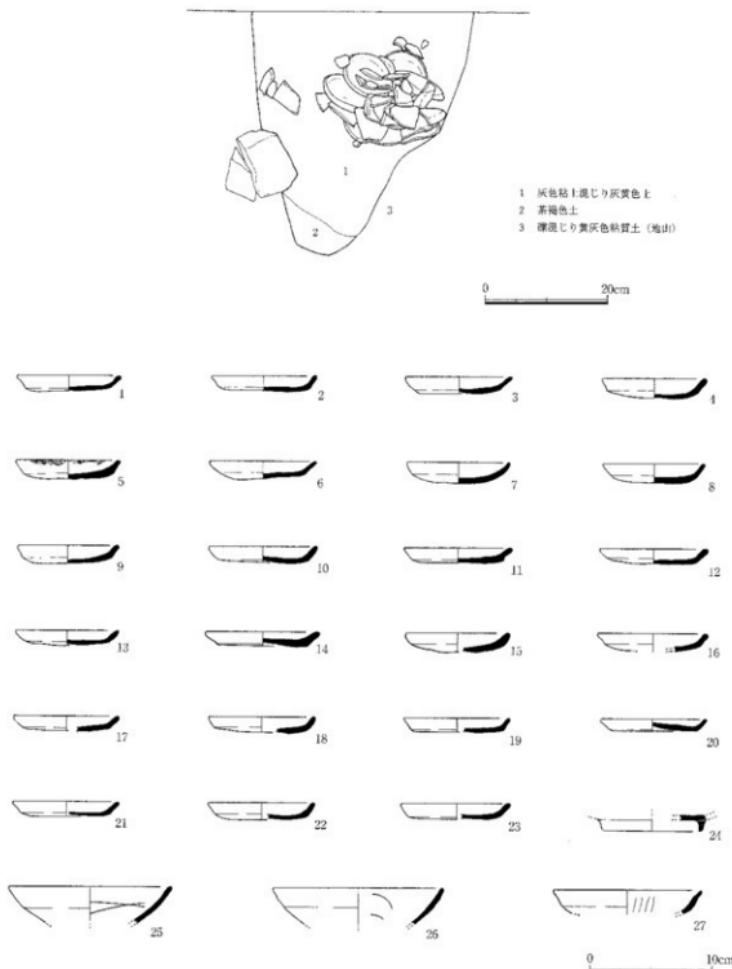
### 3.まとめ

14世紀になると、いわゆる京都系土師器皿が誕生地遺跡でも出現する。南河内地域では京都系土師器皿は14世紀から16世紀にかけて使用される土器である。この土器には規格が存在するため長期間の割に法量の変化は少ない。

しかし、京都系ではない在地の土師器皿は瓦器椀と同じように徐々に小型化していく。その変化は大きくなく、また個体差が大きいため、現段階では一概に時期を決めるのは難しい。しかし、ある程度の時期が判る方向は示すことができるのではないかと思われる。

(西山)

TP+104.300m



第7図 調査地遺跡の調査

### III 千早赤阪村における文化財普及啓発への取り組みについて

#### 1. はじめに

千早赤阪村では、文化財普及啓発を行うため、昭和61年に村立郷土資料館を設置、平成12年度より歴史講座を開講している。

また、国史跡整備事業の一環として国史跡楠木城跡の発掘を開始した平成17年より、村立中学校生徒や郷土史友の会のみなさんに発掘調査へ参加いただくなど、体験的要素を絡めた取り組みを行っている。

以下、その概要について記し、今後の事業展開への参考としたい。

#### 2. 村立郷土資料館

千早赤阪村は、昭和61年に楠木正成が生誕したという伝承の残る地に郷土資料館を設置し、楠木正成に関連する資料や郷土の文化財などを展示してきた。

なお、平成18年度より、社団法人千早赤阪楠公史跡保存会を指定管理者としている。



年度	昭和 61 年	昭和 62 年	昭和 63 年	平成 元年	平成 2 年	平成 3 年	平成 4 年
入館者数	6,947	8,133	6,496	6,015	9,901	46,121	13,068
年度	平成 5 年	平成 6 年	平成 7 年	平成 8 年	平成 9 年	平成 10 年	平成 11 年
入館者数	12,104	12,312	9,844	9,743	8,975	6,944	7,097
年度	平成 12 年	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	
入館者数	7,323	5,743	5,572	5,234	4,388	4,768	

村立郷土資料館入館者数データ

### 3. 歴史講座

千早赤阪村では、平成12年度より文化財普及啓発事業として、千早赤阪村歴史講座を実施している。

事業初年度は、外部から講師を招かずに現地見学や土器づくり等の体験的要素のある内容で行ったが、次年度以降、徐々に外部講師による講演というスタイルで取り組んできている。

なお、事前申込者の7割前後が参加する傾向にある。

場 所：くすのきホール

参 加 費：無料

講師謝礼：30,000円（公民館費から執行）



#### 平成12年度

実施日	タイトル	講師	参加者
平成12年5月27日（土）	「考古学になろう」	和泉大樹（本村）	6名
平成12年11月5日（日）	「縄文土器をつくろう」	和泉大樹（本村）	2名
平成12年12月7日（木）	「考古学を楽しむ」	和泉大樹（本村）	40名
平成12年12月14日（木）	「考古学を楽しむ」	和泉大樹（本村）	19名

#### 平成13年度

実施日	タイトル	講師	参加者
平成13年5月26日（土）	「考古学になろう」	和泉大樹（本村）	8名
平成13年6月30日（土）	「金剛山をとりまく歴史」	和泉大樹（本村）	11名
平成13年9月12日（水）	「縄文時代の南河内」	和泉大樹（本村）	18名
平成13年10月24日（水）	「弥生時代の南河内」	酒井龍一氏（奈良大学）	21名
平成13年11月7日（水）	「古墳時代の南河内」	水野正好氏（奈良大学）	26名

#### 平成14年度

実施日	タイトル	講師	参加者
平成14年10月31日（土）	「楽しい学問 考古学」	水野正好氏（奈良大学）	23名
平成14年11月28日（木）	「千早赤阪村の歴史を考える」	和泉大樹（本村）	11名
平成15年2月13日（木）	「古代の人々の想ひと信仰と」	水野正好氏（奈良大学）	29名

## 平成15年度

実施日	タイトル	講師	参加者
平成15年5月26日（水）	「海外考古学事情」	酒井龍一氏（奈良大学）	23名
平成16年1月22日（木）	「日本考古学を考古学する」	水野正好氏（奈良大学）	27名
平成16年2月19日（木）	「千里赤坂村の山城を考える」	村田修三氏（大阪大学）	25名

## 平成16年度

実施日	タイトル	講師	参加者
平成16年11月26日（金）	「世界の古代文字に挑戦する」	酒井龍一氏（奈良大学）	29名
平成16年12月8日（水）	「いま、考古学は最高に楽しい」	水野正好氏（奈良大学）	36名
平成17年1月21日（金）	「千里赤坂村の石造物」	藤澤典彦氏（大阪大谷大学）	29名

## 平成17年度

実施日	タイトル	講師	参加者
平成17年11月15日（火）	「千里赤坂村の仏像・仏画」	吉原忠雄氏（大阪大谷大学）	35名
平成17年12月15日（木）	「考古学者の考古学」	酒井龍一氏（奈良大学）	34名
平成17年12月21日（木）	「万葉集 歌えば命の泉わく」	上野誠氏（奈良大学）	39名
平成18年2月14日（火）	「葛城・生駒連峰…山の宗教史」	水野正好氏（奈良大学）	50名

## 平成18年度

実施日	タイトル	講師	参加者
平成18年10月11日（水）	「聖徳太子の都市計画」	酒井龍一氏（奈良大学）	43名
平成19年2月6日（火）	「中世の人々とまじなひ」	水野正好氏（奈良大学）	38名
平成18年11月10日（金）	「博物館へのいざないヨーロッパ編①」	中村浩氏（大阪大谷大学）	35名
平成18年12月7日（木）	「博物館へのいざないヨーロッパ編②」	中村浩氏（大阪大谷大学）	32名
平成19年1月16日（火）	「博物館へのいざない東南アジア編」	中村浩氏（大阪大谷大学）	33名

#### 4. 発掘調査への参加

##### (1) 村立中学校生徒の参加

平成17年より、千早赤阪村立中学校における選択講座に「考古学入門講座」が開講されている。選択講座は「興味・関心のある教科や講座を選択して学習し、自分の個性を伸ばす」ことなどを目的とする学習で、日本舞踊講座・茶道講座・サッカー講座などとともにこの考古学入門講座が開講されている。

講座では、講義と実体験をセットとするもので、発掘調査における時間的順序の重要さ（層位学）と室内で土器が時間的に変化すること（型式学）を学び、実際の発掘現場でレベル測量や遺構検出などを実体験するという内容である。

受講者は、平成17年度では男子生徒10名、平成18年度は男子生徒8名・女子生徒2名であった。

##### 受講した生徒の感想①

「特に心に残っていることは、土器をはり合わせたやつとマーコです。土器をはり合わせるやつは、とても難しかったです。考古学はとても楽しかったです。次も入ろうかな」



##### 受講した生徒の感想②

「ただの土だと思っていたけど、ほってみたらすごくいっぱい土器や墓石ができてすごくびっくりした。みんながんばってほった物を洗ったりして、みんな楽しそうだった」



##### 受講した生徒の感想③

「考古学入門講座に入る前は、土器はだいたい小さいかけらが少しだけしか出てこないんだろうと思っていました。けれど、もしかしたら大きな瓦みたいのものも出てくるかなとも思っていたので入ってみました。しかし、実際に入ってみると数々の苦労がありました。例えば、土器が出てきても興奮しないで、冷静に判断しなければならなかったり、歴史を変えではないため、場所ごとにカゴを分けたりする



のです。ほくが、この考古学入門を通じて思ったことは、考古学者はこんな大変なことを1人でこなしているということを改めて考えました】

### (2) 郷土史友の会の参加

本村では、平成18~20年度の3ヶ年にわたって、国史跡楠木城跡主郭部の発掘調査を予定している。今年度は、その第1回目の発掘調査である。主郭の北側に十字にトレンチを設定した結果、柱穴を検出、土師器小片などの出土を確認している。

この発掘調査に、村立郷土資料館を拠点として郷土の歴史を学習している郷土史友の会の皆さんに参加してもらった。



### (3) 交流展示事業

千早赤阪村に隣接する河内長野市には、例えば、楠木正成幼少期の学問所であったとされる觀心寺、その最初期の築城に正成が関わったという伝承の残る鳥帽子形城など、本村と同様に多くの楠木正成に縁のある文化財が点在する。

このように、共通の歴史的遺産が所在するという観点から、双方で文化財のボランティアガイド活動などをを行っている「河内長野市文化財ボランティア」と「千早赤阪村郷土史友の会」の交流事業の一環として、平成18年度より『交流展示』事業を行うこととした。

この事業は、平成河内長野側は千早赤阪村の「くすのきホール」において河内長野市に関するこを、千早赤阪村側は河内長野市の「市民文化センターキックス」において千早赤阪村に関するこを展示するというものである。

なお、平成18年度の交流展示は、以下のとおりであった。



期 間：平成19年1月23日（火）～2月6日（火）

テー マ：「手水鉢をたずねて」 河内長野市文化財ボランティア

「みんなで発掘！楠木城跡」 千早赤阪村郷土史友の会

内 容：上記テーマに関する写真パネルを展示

## 5. おわりに

以上、千早赤阪村における文化財普及啓発事業について整理した。

村立郷土資料館については、N H K 大河ドラマ『太平記』放映の時期を中心に、入館者数の急増が見られる他は5,000人前後で落ち着いており、近年は減少傾向にある。今後は、宣伝アピールを意識するとともに、入館の方々がよく言われることであるが「楠木正成について知りたい」という本村の特色を活かした特別展の開催などを検討していく必要があると考えられる。

また、歴史講座や発掘体験などは継続することに意義の1つがあると考えられ、今後も工夫を凝らしながら継続させていきたい。

(和泉大樹)

# 報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいちょうさほうこく
書名	千早赤阪村埋蔵文化財調査報告
副書名	
巻次数	
シリーズ名	千早赤阪村埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第4輯
編集著者名	西山昌孝・和泉大樹
編集機関	千早赤阪村教育委員会
所在地	〒585-0041 大阪府南河内郡千早赤阪村大字水分 263 番地
発行年月日	西暦 2007年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'."'	東経 °'."'	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号					
二河原辺城跡 NBJ-90	大阪府 南河内郡 千早赤阪村 大字二河原 辺	27383		34° 27' 38"	135° 37' 15"	2006.11.20 ~ 2007.1.31	21,000 m <sup>2</sup>	開発
誕生地遺跡 NT-91	大字水分・ 二河原辺			34° 27' 49"	135° 37' 37"	1991.5.11		開発

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
二河原辺城跡 NBJ-90	山城・墓地 群	鎌倉～江戸	土壙	土師器 瓦質土器 常滑・瀬戸 鉄製品 錢貨 他	土葬墓・火葬墓
誕生地遺跡 NT-91	城館	鎌倉～南北朝	柱穴	土師器	土器埋納ビット

## 千早赤阪村埋蔵文化財調査報告

2007年3月31日

発 行 千早赤阪村教育委員会

千早赤阪村大字水分263番地

0721-72-1300

印 刷 (株)中島弘文堂印刷所

